

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 30日から31日にかけて、前線上に発生した低気圧が東・西日本付近を通過する。また、別の低気圧が中国東北区からオホーツク海へ進む。
- 4月1日から2日は、前線が日本の東から本州南岸付近にのび、前線上を低気圧が東進する。
- 3日は、前線が華南から東シナ海にのびる。

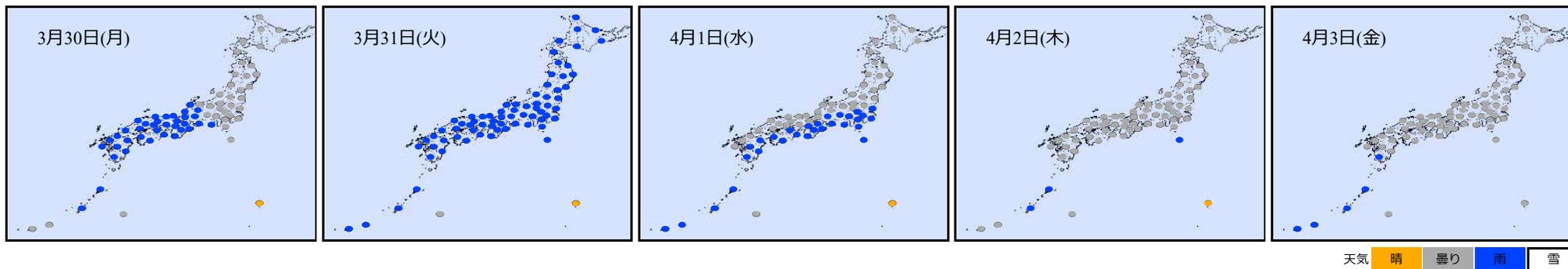
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 30日から31日にかけて、東日本と西日本では前線の活動が活発なため大雨となり、前線の活動の程度によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

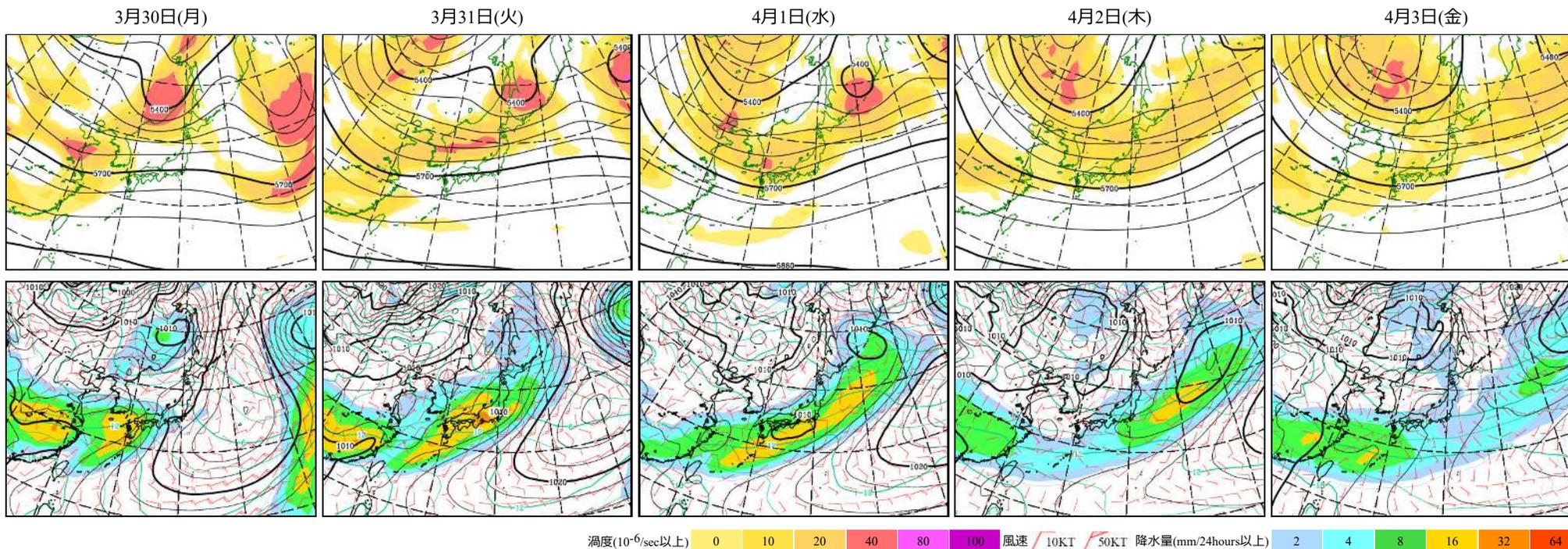
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

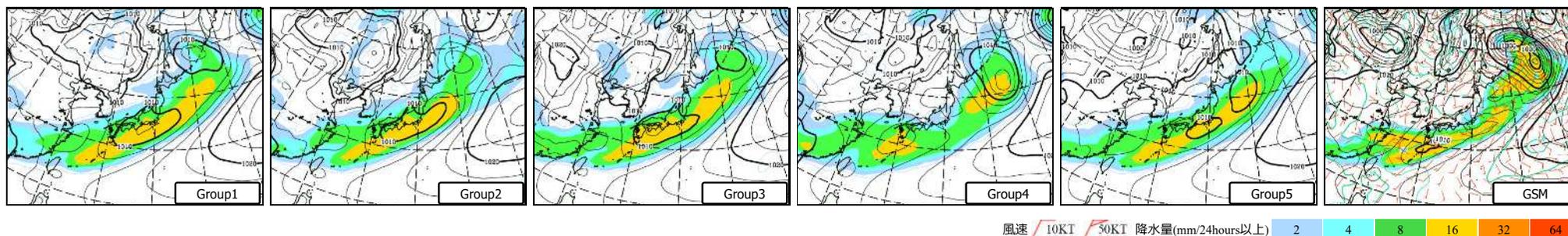


- 北日本は、雲が広がりやすく、31日は雨の降る所が多い。
- 東日本、西日本と沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月1日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、30日から31日にかけて、東シナ海から東日本付近に進む低気圧が明瞭になった。1日は、西日本付近の低気圧が明瞭になった。
- 降水確率ガイダンスの値は、30日は、北日本で小さくなった。31日は、西日本で大きくなった。1日は、東日本から西日本で大きくなった。
- 期間後半はスプレッドは大きく、5400mの特定高度線のばらつきも大きい。
- 31日は、日本モデルは低気圧を東日本付近とサハリン付近に予想しているが、海外モデルでは北の低気圧を予想していないものがある。4月3日は、単独モデルは日本の東に高気圧を予想しているが、南北の位置にはばらつきがある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。